

69 期生

2年学年だより

豊中市立第五中学校 2021年6月18日(金) No.12



みんなの思いで「夢」を持ち上げよう！

学年集会での「天秤」の話を知っていますか？みなさんは、きちんと反対側に「頑張るべきもの」を置くことができているでしょうか…

あなたの頭の中にいつも“天秤”を用意することです。

天秤の片方の皿の上には、あなたの手に入れたいものを載せます。そして、それと釣り合うものを、釣り合う量だけ、もう片方の皿の上に乗せたときに、あなたの欲しいものが手に入ります。

例を挙げてみましょう。

「チームで一番野球がうまくなりたい」と考えている少年がいます。もちろんこれは、『物々交換』では手に入れることのできないものです。では、もう片方の皿の上に何をどれだけ載せれば、この思いを実現することができるのでしょうか。

そう、誰でもわかるはずですが。“同じチームの誰よりも、意味ある練習をたくさんする”というものを載せれば釣り合うでしょう。もし、この少年が「日本で一番野球がうまくなりたい」という目標に変えたら、もう片方の皿に何をどれだけ載せなければならないか、答えが変わってくることもよくわかると思います。

天秤の反対側に何をどれだけ載せればそれを手に入れられるのかということは、誰もが考えればわかることです。だからこそ、それを考えて、反対の皿に必要なものを必要なだけ載せて、自分の欲しいものを手に入れてきた成功者たちにとっては、それらが手に入ることは“当然”の結果なのです。

一方で、人生は思いどおりにいかないと悩んでいる人の多くは、“〇〇高校に合格したい”という目標を天秤の片方の皿に乗せたときに、もう片方の皿に“お賽銭100円”を置こうとしています。これでは釣り合いませぬ。少ないという意味ではないですよ。置くものを間違えています。

あなたはこの話を笑うかもしれませんが、誰もが頭の中に天秤を用意して考えてみると、こういう異質なものを置こうとしているという反省があるはずですよ。

もちろんこの場合は、反対の皿に“勉強する”という努力を載せる必要があります。そして問題なのはその量です。足りなければ釣り合いませぬ。釣り合わないということは手に入らないのが当然なのです。

これが“当然”のはずですが、多くの場合、人々は片方の皿の上に乗せる努力が足りずに欲しいものが手に入らなかったことを「人生は思いどおりにいかない」と言うのです。

そして、私の考える『本当のピンチ』の基準はここです。

つまり、自分が手に入れたいものに対して、反対の皿に載せているものが違っていたり、足りていなかったりするにもかかわらず、それが手に入ってしまうことが、人生の中では何度かある。それこそが『本当のピンチ』なんです。

そういうことが一度あると、その後も人生においてそれを期待することになるかもしれません。近い将来必ず、「あのときうまくいってしまったばかりに……」なんて後悔することになるのです。

今のあなたは、天秤の釣り合いなんてとれてなくてもいい、ラッキーでも何でもいから、テストで良い成績がもらえるほうが幸せだと考えているかもしれませんが、二十年後のあなたもそう考えているのでしょうか？

成功の人生を送る人にとっては、起こる出来事にラッキーとアンラッキーの区別はありません。どんな出来事も自らを成長させる要素に変えて、たとえどれほど不運に見舞われたとしても、その経験がなければ手に入れることができないような成功を実現しようとします。そして普通の人が、ついてない出来事や失敗として片づけてしまうことを、自らの成功のために必要不可欠な“材料”にまで変えてしまうのです。

あなたにもその力があります。

失敗という経験があったからこそ、身につけられる精神的強さ。そこから立ち上がり、新しく起こした行動によって得られる出会い。その後、別の道に進んだからこそ得られる成功。そして発見する自分らしい生き方。それらすべてを経験した二十年後のあなたは、今日の経験をどう振り返るのでしょうか。

「あのとき、後悔したことがあったからこそ今日の成功がある。そう思うと、あの経験に感謝しなきゃいけないなあ」こう思うことでしょう。

その成功を実現できるのは、あなたしかいません。大丈夫、あなたにはできます。